

教育行政の未来を構想する上で、

リーダー同士が自身の「在り様」を問い、
語り合うことは、

どんな意味を
持つのでしょうか。



教育行政リーダー・ダイアログ

教育委員会向け

第1回 10月2日（金）

9:00～12:00

リーダーとしての自分を問い直す

—大切にしてきたこと、大切にしていきたいこと—

第2回 1月18日（月）

14:00～17:00

自身の判断軸を問い直す

—ケーススタディから考える—

教育センター向け

第1回 11月27日（金）

9:00～12:00

教育センターの在り方を問い直す

—研修観の転換に向けた試行錯誤から考える—

第2回 2月1日（月）

9:00～12:00

教育センターの在り方を問い直す

—リーダーシップをいかに発揮していくか—

なぜ、対話なのか

教育行政の最前線に立つリーダーは、さまざまな声と期待を受けとめながら、日々、答えの見えにくい判断を重ねています。

ところが、その判断を支えているはずの自分自身の思い——何を大切にし、誰のために働くのか——を同じ立場の人と率直に語り合う機会は、決して多くありません。

このダイアログは、地域も立場も異なるリーダーが集まり、それぞれの実践と、その奥にある思いを持ち寄る場です。

人の語りに耳を傾けるなかで、

自分の足もとを見つめ直す。

他者との対話であっても、自分自身との対話であっても、そこから何を感じ、何を考え、これからの教育行政をどう構想していくのか。一人ひとりが自らの想いや在り方を問い、確かめ、これからの一歩を考える。そんな時間になればと考えています。

この場で、 ともに大切にすること

● 答えを出すよりも問いを深め、
自分自身の問いを持ち帰ります。

● うまくいった話も、
迷いも問いも、
同じ重さで受けとめます。

● たがいの語りに耳を傾け、
ともに考えます。

● 肩書きや所属は、
いったん脇に置きます。

● ここで聴いたお話は、
この場の信頼の中にとどめます。

参加者の声

🗨️ 語ることで気づいた、自身の本音と課題

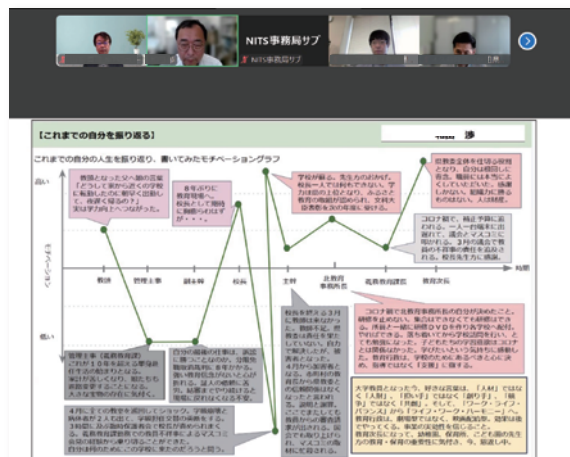
管理職の立場では、自己開示の機会はなかなか得られないものです。しかし、今回対話を通じて、「私」が何を考え、本当はどう感じていたのかを話したかったのだと気づかされました。この対話によって、心の奥底で気づいていながらも向き合ってきた自身の弱みと、いよいよ向き合わざるを得ないのだという後押しをもらいました。（東海北陸版参加者）

🗨️ 思考を深め、未来への覚悟を固める

このような研修スタイルが、教育行政リーダー研修の主流になっていくとよいと思いました。

また、これまで自分を突き動かしてきたモチベーションの背景を知り、改めて今後の業務に向かう責任と覚悟、自身の成長への期待感をもつ機会となりました。（東北版参加者）

過去開催の様子



(R7 東北ブロック)



(R7 北海道ブロック)

本年度の 開催情報

令和8年度
実施要項は
こちら

※随時更新

